

# 平成 24 年度 有機 JAS 規格制度等信頼向上委託事業

## 報告書

平成 25 年 3 月

株式会社 三菱総合研究所



## 目 次

1. 検討委員会 .....	1
2. 研修会の開催 .....	3
2.1 有機 JAS 検査員研修会 .....	3
2.2 有機 JAS 判定員研修会 .....	11
3. 冊子「有機畜産物の生産行程管理者ハンドブック（改訂第 2 版）」 .....	17



## 1. 検討委員会

登録認定機関は事業者を認定するに当たり、書類審査及び実地検査を行い認定の判断をするが、登録認定機関によって審査・検査能力や判断基準が異なると適正な制度運営に支障をきたしかねない。

そこで、個々の登録認定機関による認定業務のバラツキをなくすための講習等を行い、登録認定機関全体のレベルアップを目的として、登録認定機関の検査員及び判定員への研修会を開催した。

有機食品の登録認定機関との連携のもとで、(独)農林水産消費安全技術センターなどの関係者にご協力頂き、検討委員会を行った。

### 検討委員名簿

氏名	所属・役職
加藤 和男	特定非営利活動法人日本有機農業生産団体中央会 事務局長
渡邊 義明	株式会社アファス認証センター 代表取締役
丸山 豊	特定非営利活動法人日本オーガニック検査員協会 理事長
渡邊 久芳	(独)農林水産消費安全技術センター規格検査部 規格検査課 課長

#### (1) 日時

平成24年 7月2日(月) 13:30~16:30

#### (2) 場所

株式会社 三菱総合研究所 4階 会議室

#### (3) 概要

##### 今年度の研修の方向性

検査員研修においては、平成23年度と同様にほ場と加工場での実施研修をともなう形式とし、研修対象は資材リストや規格改正への対応も含めた実施内容とし、全ての検査員を対象とした。

判定員研修は、平成23年度と同様に東京と大阪において講義及び一部演習を取り入れた形式で開催し、規格改正やISOガイド65の改正予定を含めた実施内容とし、判定員及び事務局員を対象とした。

##### 検査員研修の構成等

- 研修の日程について、1日目の午前は検査に関する一般的な講義を行い、午後からは、実地研修に備えた検査のポイントの確認などを一部グループ形式で実施することとした。

- ・ 2日目の午前は、圃場または加工場で複数のグループに分かれて実地研修を行い、午後は、午前の内容を受けて、検査報告書作成のポイントなどを一部グループに分かれて実施する形式とした。

#### 判定員研修の構成等

- ・ 各登録認定機関の認定基準の相違点について検証し、その幅を縮めていくような内容にすることとし、特に相違点が多く見られるテーマを選定して、演習方法を検討していくこととなった。
- ・ ISO/IEC17065(旧ISO/IECガイド65)の導入についての講義を実施することとした。
- ・ 防虫・防鼠の資材の選定と注意点についての講義を実施することとした。

## 2. 研修会の開催

### 2.1 有機 JAS 検査員研修会

有機農産物及び有機加工食品の認定審査を行う検査員及びこれらを目指す者全てを対象に、規格の改正内容についての理解を深め、検査員に必要な知識を習得することを目的として研修会を開催した。

実地研修を取り入れることで、検査員個人のより実践的な検査能力の向上と斉一化を図ると共に、登録認定機関同士の意見交換により共通認識を持つことができた。

#### (1) 告知方法

登録認定機関等を通じて告知を行った。

#### (2) 開催日程及び参加人数

開催地	開催日	種別	開催場所	募集人数	参加人数
北海道	平成24年 10月25日(木) ～26日(金)	農産物	岩見沢市 コミュニティプラザ 多目的ホールA 北海道岩見沢市 有明町南1番地20 他	30名	20名
関東地方	平成24年 11月8日(木) ～9日(金)	農産物	株式会社三菱総合研究所 会議室 CR-DE 東京都千代田区永田町2-10-3 他	30名	29名
関西地方	平成24年 12月6日(木) ～7日(金)	農産物	京都私学会館 中会議室301 京都府京都市下京区 室町通高辻上ル山王町561 他	30名	20名
九州地方	平成24年 11月29日(木) ～30日(金)	農産物	熊本市国際交流会館 第1会議室 熊本県熊本市中央区 花畑町4-18 他	30名	17名

<b>関東地方</b>	平成24年 9月26日(水) ~27日(木)	加工 食品	<b>株式会社三菱総合研究所</b> <b>会議室 CR-DE</b> 東京都千代田区永田町2-10-3 <b>他</b>	20名	24名
<b>関西地方</b>	平成24年 10月11日(木) ~12日(金)	加工 食品	<b>京都私学会館</b> <b>中会議室 206</b> 京都府京都市下京区 室町通高辻上ル山王町561 <b>他</b>	20名	14名
<b>合計</b>				<b>160名</b>	<b>124名</b>



講義の様子（関西農産）



講義の様子（関東加工）



演習の様子（九州）



演習の様子（北海道）



## (3) タイムスケジュール及び講師

## 【第一日目】

09:40～10:00	受付
10:00	開会
10:00～12:00	<b>講義「有機 JAS 規格及び認定の技術的基準と検査のポイント」</b> <b>【北海道】【関西農産】</b> 特定非営利活動法人日本有機農業生産団体中央会 事務局長 加藤 和男 <b>【関東農産】【関東加工】</b> 株式会社アファス認証センター 代表取締役 渡邊 義明 <b>【関西加工】【九州】</b> 特定非営利活動法人日本オーガニック検査員協会 理事長 丸山 豊
12:00～13:00	昼食（各自）
13:00～13:15	<b>実地研修について</b> ・研修の目的とスケジュール ・秘密保持について（秘密保持契約書の捺印・提出）
13:15～13:45	講義「研修ほ場／加工場について」
13:45～15:15	個人演習「書類審査の実施」
15:15～15:30	休憩
15:30～16:45	グループワーク「検査で見るとべきポイントの検討」
16:45～17:45	グループワーク結果の発表・講師講評
17:45～18:00	研修 2 日目の実地研修の説明
18:00	第 1 日 終了

(敬称略)

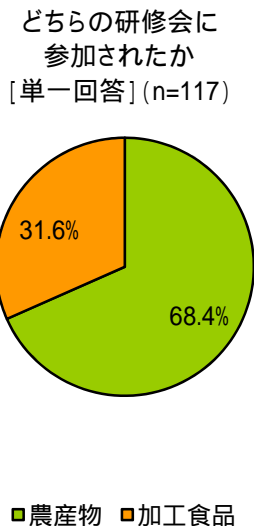
**【第二日目】**

- |               |  |
|---------------|--|
| 08:00 ~ 08:30 | <b>集合</b>  |
| 09:00 ~ 12:00 | <b>実地研修</b><br>【北海道】有限会社大塚ファーム<br>【関東農産】有限会社アグリ山崎<br>【関西農産】ヴィレッジ・トラスト つくだ農園<br>【九州】百草園<br>【関東加工】高橋ソース株式会社<br>【関西加工】株式会社播磨園製茶 |
| 12:00 ~ 13:00 | <b>移動</b>  |
| 13:00 ~ 14:00 | <b>昼食（各自）</b>  |
| 14:00 ~ 15:00 | <b>個人演習「情報の整理と改善指摘事項の作成」</b>   |
| 15:00 ~ 16:00 | <b>グループワーク「情報の共有化と改善指摘事項の作成」</b>   |
| 16:00 ~ 16:15 | <b>休憩</b>  |
| 16:15 ~ 17:00 | <b>グループワーク結果の発表</b>  |
| 17:00 ~ 17:30 | <b>講師講評</b>  |
| 17:30         | <b>記録・規程等資料の回収・受講証明書の授与・閉会</b>   |

（敬称略）

(4) アンケート結果

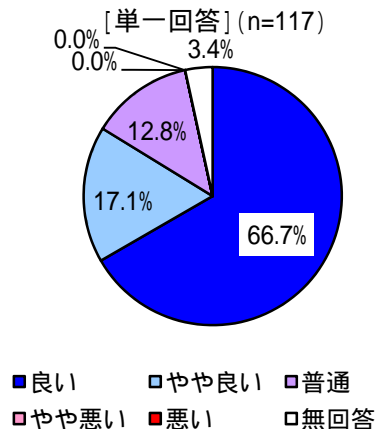
研修会の参加者を対象にアンケートを実施したところ、以下の回答が得られた。  
(n=117)



また、研修会の感想を項目ごとに尋ねたところ、以下の回答が得られた。

プログラム構成 (n=117)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つ を付けてそれぞれ理由をご記入ください。【プログラム構成】



- 例年に比べて、検査の方法・ポイントがコンパクトにまとまっていたと思う。
- 実際の検査と同じ手順。その前の講義もよかった。
- グループワークであらかじめ意見や見解の統一をできる時間が多くとれていたため、実地でやりやすかった。
- 書類審査～実地検査、検査報告までの一連を学び直すことができ良かった。グループワークで色々な視点を感じられたのがまた良い。
- 講義・個人・グループワークのバランスが良かったです。
- 2日間で実地までできるよう、とても

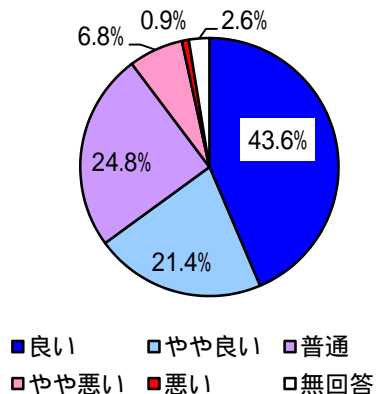
分かりやすくまとめてあったと思います。特に工場の協力体制はすばらしく、とても感謝しております。

- 内容構成は良い。ただし、時間が多少長い。

時間配分 (n=117)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つ を付けてそれぞれ理由をご記入ください。【時間配分】

[単一回答] (n=117)



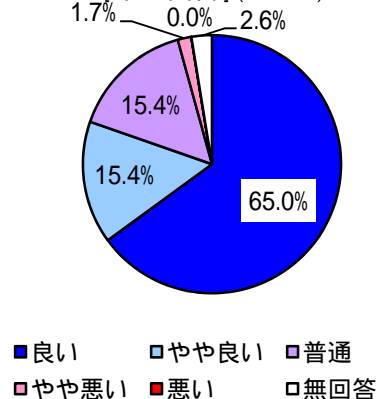
- もう少し。時間が多くあった方がいい所、少なくともいい所の配分をしてほしい。
- 終了は 17:00 頃までにしてほしい。
- もう少し休憩が欲しかった。

- 必要事項すべて行えた。
- 限られた時間を有効に利用している。
- プログラム上では長く感じられるが、実際に研修を受けてみると充実しており、適切な時間配分だと感じた。
- 1 日目午前～時間不足。資料の量が多く、時間とマッチしていない。急ぎすぎ、早口、質問時間とれない形となり、工夫を要する。
- 質問の時間がもう少しあれば。指摘事項の相互評価があれば。
- 仕方がないとは思いますが、実地の時間がもう少しあると良いと思います。(又はもう少し少人数で行うなど)

研修内容 (n=117)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つ を付けてそれぞれ理由をご記入ください。【研修内容】

[単一回答] (n=117)



- 模擬的に書類審査、実地検査を行うことで、実際の業務に生かすことができると感じた。

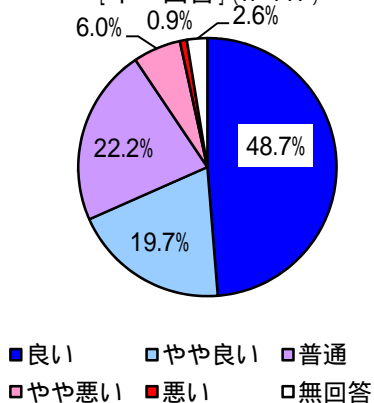
- 最新の法規、基準の情報が入手できた。
- 技術的基準、生産行程の検査方法の法的解釈がきけて良かった。
- 検査員の業務内容についての流れが分かった。見落としがちなポイントや報告書の書き方が理解できた。
- 講師がすばしかったです。説明が分かりやすく、スライドで現地の例を交えての説明が良かったです。グループワークでは、他の登録認定機関の検査員のみなさんの考えや自分が見落としていることに気づかされ、勉強になりました。

- 指摘事項として、それが適当だったのか解説がほしい。1 班に 1 人ベテランの検査員がついてほしい。
- 1 人だけでなくグループ分けて話し合っ て意見を統一するシステムは良く、内容についても良かった。
- 同程度経験の検査員の研修会が望まれる。
- 講義と演習の割合がちょうどよく、意欲的に取り組めた。

資料内容 (n=117)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つ を付けてそれぞれ理由をご記入ください。【資料内容】

[単一回答] (n=117)



- 実際の審査に使用する資料を使って、具体的に学習できた。
  - ワークシートが活用できた。
  - 良かったです。国のテキストではなかった JAS 規格・認定の技術的基準と検査のポイントが一覧となっているものが特に参考になりました。
  - 多すぎず少なすぎず妥当。法律の改正ポイントが折りこまれていて良かったです。
  - 報告書などの様式が使いづらい。
  - 実地研修の資料の情報量が少なかった。
  - 一部のコピーでも良いから全部の資料がほしかった。
- 認定機関の研修でも同じテキストを使いたいと思いました。
  - 最新の規程等は主催者側で用意してほしい。
  - 食品工場は異物混入について決まりがあるところが多いので、資料について運営側でご配慮いただいた方がいいと思います。(ホチキスの使用など)

今回の研修で学んだことの中で、特に、これからの業務に反映させたいと思う事項として以下の意見があった。

- 全体を確認できたという点では、特定な内容ではなく、全体が役に立ったと思う。検査の心がまえ、やるべきこと、やってはいけないことのけじめに関して、勉強になったと思う。
- 各規程において、もっと JAS 規格のどの部分に当たるのかを意識したいと思います。
- 検査時に何を確認するか精査し、的確に実施する事。事前の準備（書類審査等）を十分に行うこと。
- 各基準や、規格に基づいた指摘、事業者が納得する指摘の重要性。
- 内部規程のチェックに関心がもてる様になりました（これまで苦手でした）。
- 開始会議と終了会議の具体的開催方法と注意点。
- 他の検査員の方々と議論し、それぞれの検査ポイント、着眼点などがあって、大変参考になった。
- 生産者のお話、有機を広げるために検査をする、ということが心に残りました。心にとめて業務に取り組みたいと思います。
- 当社でも研修会を行っているが、グループミーティングを取り入れたい。またグループ毎に発表させたい。今は一方的に話す研修会なので。

今回の研修で学んだことは、所属する組織等に、いつ、どのようにフィードバックする予定かを聞いたところ、以下の回答があった。

- 資料回覧およびミーティング。
- 組織内の検査員研修時に行う。
- 今後の検査に生かしていく予定です。
- 週明けに報告書の形で提出し、課内で回覧、周知する予定。
- ・機会を作り、他の検査員に伝える。・会員向けの機関紙にレポートを掲載する。
- 所属組織での相違を相談したい。
- 直ちにフィードバックさせたい。こうした経験の積み重ねが技量の向上になる。
- 来春までに、組織内部でレベルアップに努め、来年のシーズンに備える。
- 個人参加なので何もしない。(その他)この研修会を検査員に伝えていない認定機関があるので、検査員への実施を告知する方法を検討する必要がある。
- 今回で、研修事業も終了するとのことですが、できれば継続していただきたい。

## 2.2 有機 JAS 判定員研修会

有機農産物及び有機加工食品の判定員及び事務局員を対象に、規格の改正についての理解を深めるとともに、演習を通して多様な事例に接し、共通の判断を学ぶための研修会を開催した。

### (1) 告知方法

登録認定機関を通じて告知を行った。

### (2) 開催日程及び参加人数

会場	開催日	開催場所	募集人数	参加人数
東京会場	平成 25 年 1 月 21 日(月)	三菱総合研究所 東京都千代田区永田町 2-10-3	80 名	64 名
大阪会場	平成 25 年 1 月 23 日(水)	大阪リバーサイドホテル 大阪市都島区中野町 5-12-30	50 名	22 名
合計			130 名	86 名



講義 演習の様子（東京）



講義 演習の様子（大阪）



## (3) タイムスケジュール及び講師

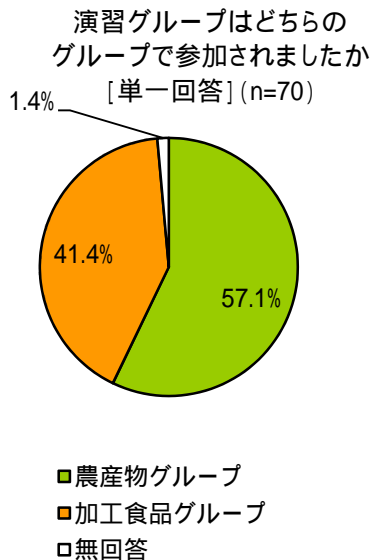
9:30～	受付
10:00	開会
10:00～10:30	はじめに（有機 JAS 規格等の改正について） 【東京】農林水産省 消費・安全局 表示・規格課 大貝 真弓 【大阪】農林水産省 消費・安全局 表示・規格課 長谷 亮一
10:30～11:15	ISO/IEC17065（旧 ISO/IEC ガイド 65）の導入について 【東京】独立行政法人農林水産消費安全技術センター 規格検査部 規格検査課 専門調査官 大村 敏幸 【大阪】独立行政法人農林水産消費安全技術センター 規格検査部 規格検査課 主任調査官 出島 博文
11:15～12:15	有機 JAS 規格における防虫防そ資材の選定と注意点 ～別表2及びそれ以外の資材のリスク管理～ 【東京】【大阪】イカリ消毒株式会社 CLT研究所 所長 大音 稔
12:15～13:15	休憩
13:15～13:45	机上判定演習についての説明 【東京】【大阪】特定非営利活動法人日本有機農業生産団体中央会 事務局長 加藤 和男 【東京】株式会社アフアス認証センター 代表取締役 渡邊 義明 【大阪】特定非営利活動法人日本オーガニック検査員協会 理事長 丸山 豊
13:45～15:15	個人ワーク「書類審査の実施」
15:15～16:45	グループワーク「判定会議」
16:45～17:30	発表・講評
17:30	資料回収・受講証明書授与・閉会

(敬称略)



(4) アンケート結果

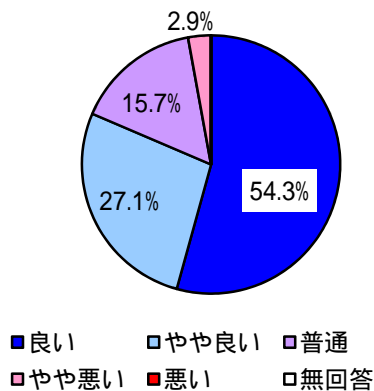
研修会の参加者を対象にアンケートを実施したところ、以下の回答が得られた。  
(n=70)



また、研修会の感想を項目ごとに尋ねたところ、以下の回答が得られた。

プログラム構成 (n=70)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つ を付けてそれぞれ理由をご記入ください。[プログラム構成]  
[単一回答] (n=70)

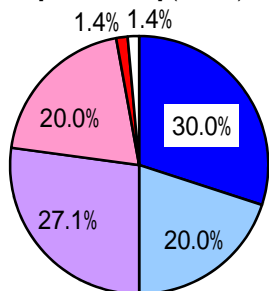


- 構成の流れが大変よかった。
- 演習を通じて、実務における視点を身につけることが出来た。
- アップデートされた事柄を効率よくまとめて下さっていたので、よかった。
- 午前の3つは多い。
- 基礎・法令～実習的な内容と、幅広く学べて非常に良かった。
- 実習で確認出来たことが良かった。
- 判定員研修に適している。
- 実習のとき2つに仕切りのできる部屋だとなおよい。

### 時間配分 (n=70)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つを付けてそれぞれ理由をご記入ください。【時間配分】

[単一回答] (n=70)



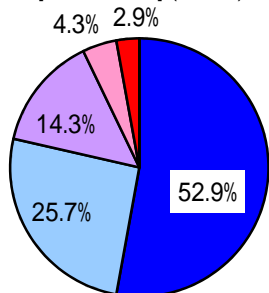
■良い □やや良い □普通  
 □やや悪い ■悪い □無回答

- 個人ワークは時間が短かった。
  - 午前中に一度休けいが欲しい。
  - 午前中、講義時間延長で集中力に欠けた。
  - 演習にはもう少し、またその解説にも時間を割いて欲しい。
  - 配布資料の配り方が悪い。(お昼休み中に配布すべきでは・・・)
  - ルーズすぎる。計画性がない。講演がのびて演習がつまったことに関して早くやらないと帰れないとせつづくのはおかしい。
  - 適切な配分だったと思います。
- 実習の時間がよくとれた。
  - 座学と実習とのバランスは良かった。
  - 終了の時間を 17 時程度にしてほしい。(遠方なので)
  - ISO17065、防虫防そ等の説明時間をもう少し多く。

### 研修内容 (n=70)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つを付けてそれぞれ理由をご記入ください。【研修内容】

[単一回答] (n=70)



■良い □やや良い □普通  
 □やや悪い ■悪い □無回答

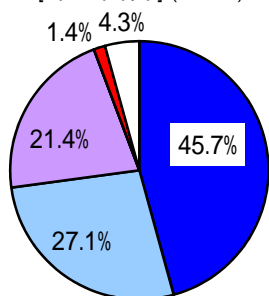
- バランスよく配分されている。
  - 現場の実態をくみあげた演習。
  - 講評のまとめ資料が欲しかった。
  - ISO17065 がわかった。
  - 防虫防ソの具体的なお話を聞くことができ、今後の検査時の確認ポイントの幅が広がった。
  - 実習の解説がよかった。
  - 演習内容の資料が見慣れていないので一読するだけで時間が経過する。
  - 17065 の導入について、もう少し絞った内容にして欲しかった。
- 午後の演習は、最後のグループ報告は不要、問題提供者からの解答とそれに対する質問応答だけでよい。(時間が節約できる)
  - 演習の進め方の説明が悪い。判定の手法に対する研修としては内容が悪い。

- グループ実習で他の検査員と交流出来て良かった。
- 2日間にして、農産・加工の両方を学べたらもっと良かったと思います。
- 変更点や問題点を詳しく説明してほしい。(聞きたい内容を) 特にISO 関連の時間が短すぎた感は否めない。

資料内容 (n=70)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つ を付けてそれぞれ理由をご記入ください。【資料内容】

[単一回答] (n=70)



■良い □やや良い □普通  
 □やや悪い ■悪い □無回答

- 現場の内容を取りあげたため(よかった)
- 防虫防ソの資料はありがたいです。
- わかりやすかった。
- 内容は充実していると思うが量が多すぎると感じた。
- 判定会、添付書類の並びが分かりづらかった。
- たくさんあってバラバラになってしまう。必要なときに必要な資料をさがすのにあわててしまう。1冊にまとまっているとありがたい。
- 詳細によくできている。
- パソコンで資料を準備するのは大変。

今回の研修で学んだことの中で、特に、これからの業務に反映させたいと思う事項として以下の意見があった。

- 規格の改正については、改めて意識して確認しようと感じた。
- ISO17065 について (特に力量の部分)
- 有機 JAS 規格における防虫防ソ資材の選定と注意点。
- 最後のコーディネータの講評は判定をする際に心すべきと思った。
- 最後のグループでの話し合いが良かった。
- 業務規程の改定作業の理解のために、特に役立った。
- 種々、判定の見方を学ぶことが出来たと共に判定の責任の重さを改めて認識した。今後、自己研鑽に努めたい。
- 方面別の研修の場があるともっと良い。
- ガイドライン変更による内部規程等、問題となる事項が多いにもかかわらず、説明不足があり、今後の研修で充実を望む。(これから反映したい事項のため)
- 演習での論議は今後の業務にも有効と考える。

- 検査報告書の妥当性の検証を十分やりたい。
- 適・不適の判断をした根拠を、より明確に示せるように今後の業務で心がけていきたいと思いました。
- 判定会議の進行の方法。
- レビューの重要性を確認できた。

今回の研修で学んだことは、所属する組織等に、いつ、どのようにフィードバックする予定かを聞いたところ、以下の回答があった。

- 年数回の検査員・判定員会議でISO17065の導入についてとりあげる。
- 判定委員会。業務規程等も大幅に改正になり、今後は更にこのような研修が必要と思う。
- 1週間以内に全体ミーティングで。
- 研修の資料を、審査員・判定員に回覧し、研修にも一部使用する予定。
- 内部研修会、OJTで指導する際に役立てたいと思います。
- 判定に当面する機会にフィードバックする。
- 研修報告書を提出する。
- 事務局と連携して今回出席者も含め確認する。
- 今の所、特に予定はなく、自己に役立てたい。
- 審査員、判定員会議にて報告をすることにしております。
- 判定員研修の講習会に利用し、全員で勉強します。
- 今後の実務に生かしていく。
- レポートを作成し、検査員・判定員等に関覧する。
- 研修に参加していない判定員に伝える。

### 3. 冊子「有機畜産物の生産行程管理者ハンドブック(改訂第2版)」

当ハンドブックは、有機畜産物の生産に取り組み始めた生産者や、これから生産を始める生産者、及びこれらを管理する事業体の指導者を対象に、有機 JAS 認証制度の概要、生産の方法についての基準、認定申請の手続きなどをまとめたハンドブックである。

今年度事業では、平成24年の有機 JAS 規格改正内容を反映して改訂を行った。

なお、執筆にあたっては、特定非営利活動法人日本オーガニック検査員協会の理事長である丸山氏にご協力いただいた。

#### (1) 体裁

有機畜産物の生産行程管理者ハンドブック(改訂第2版)  
A4版、本文182ページ

#### (2) 構成

有機畜産物の生産行程管理者ハンドブック(改訂第2版)

##### 第1部 概要編

- 第1章 有機畜産物とは?
- 第2章 畜産種別の取り組みのポイント
- 第3章 有機飼料の概要
- 第4章 有機加工食品の概要

##### 第2部 詳細編

- 第5章 有機畜産物の JAS 制度の概要
- 第6章 認定の技術的基準と JAS 規格に基づいた生産行程管理の内容
- 第7章 認定の技術的基準と JAS 規格に基づいた格付と出荷の内容

##### 第3部 資料編

#### (3) 作成部数

500部

#### (4) 配布先

地方農政局、独立行政法人農林水産消費安全技術センター、登録認定機関に配布した。